

広報

第973号

いながわ

9月

令和2年
(2020年)



いつもより短い夏休みも終わり、元気に2学期スタート!(大島小学校)

特集

未来の私たちを守る防災

あなたの大切な人を救うために
～救命講習を受講して心肺蘇生法を覚えましょう～ ☐ 8

新型コロナウイルス関連情報 ☐ 9

瞬(ときめき) 井上 大地 さん ☐ 25

私のオススメ★ 故きを温ねて新しきを知る ☐ 26

いながわ特派員報告

みんなの暮らしに役立つ統計

～国勢調査ってなあに?～ ☐ 28



町内産ブドウの出荷スタート!(肝川)

過去の災害写真からもわかるように、山間部や河川が近い場所、周囲より低くなっている土地は、より一層の注意が必要です。「これくらいなら大丈夫」という少しの油断が命取りになる場合もあります。

自然災害による被害を完全に防ぐことはできません。しかし、被害を減らす「減災」は私たち一人ひとりで取り組むことができます。過去の経験や教訓を活かし、備えや行動について考えましょう。

過去の災害を忘れない

その時、猪名川町は…

猪名川を中心に集落が形成されている本町では、豊かな水の恩恵を受ける一方で、大雨の際に猪名川やその支流が氾濫するなど、多くの風水害を経験してきました。

近年では「平成30年7月豪雨」や同年に発生した「台風21号」、「秋雨前線による大雨」などで、一部河川の越水、土砂崩れによる道路通行止めなどの被害がありました。

自然災害は、決して他人事ではありません。いつ起こるかわからない自分のこととして捉え、日頃から防災に対する意識を持つておくことが大切です。



平成 26 年 8 月・豪雨（差組肝川 1 号線 / 道路の洗堀）



平成 25 年 9 月・台風 18 号（木津地区 / 安全柵崩壊）



平成 30 年 9 月・秋雨前線による大雨（阿古谷民田線 / 土砂災害）



原地区 / 平常時



平成 26 年 8 月・台風 11 号（原地区 / 河川越水）

特集

未来の私たちを守る防災



近年、全国的に予想を超える雨量の台風やゲリラ豪雨による風水害、土砂災害などが多発し、ニュースでも災害情報を目にする機会が増えました。また、30年以内に70〜80%の確率で発生するといわれている「南海トラフ地震」など、私たちは、いつ、どのような災害に遭遇するかわかりません。

今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、例年とは違う災害対策が必要となります。どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。

今号では本町で起こった過去の災害を振り返りながら、改めて災害への備えについて考えましょう。

▽問合せ 生活安全課（☎ 766・8703）

防災マップ・警戒レベル

猪名川町防災マップ

災害の発生に備えて、お住まいの地域の「災害危険度」を把握していますか？町内全戸に配布している「防災マップ」には、



各地域の避難所の場所や降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される「浸水想定区域」、土石流や土砂崩れなどが発生した場合に、危険が生じる恐れがある「土砂災害警戒区域」などが示されています。これらの区域は原則、自宅の外に避難が必要です。手元に防災マップがなくても、パソコンやスマートフォンなどでも利用できる「ウェブ版」もありますので活用してください。



必要な情報を集める

町からの避難情報は、いなぼうネットなどの災害情報配信サービスのほか、町ホームページやテレビなどでも確認することができます。状況が急変することもありますので、最新の情報を収集し、必要な対策をとるようにしてください。

警戒レベルと避難行動

警戒レベルは、風水害や土砂災害に備えて、私たちがとるべき避難行動をお知らせするために5段階にレベル分け（左図参照）したもので、気象庁や町が避難情報とあわせて呼びかけます。

警戒レベルの数字が大きくなるほど、危険性は高くなります。「レベル5」になってからでは、安全な避難が難しい場合もありますので、最新の避難情報や気象情報に注視し、各警戒レベルに合った早めの避難行動をとるようにしてください。ただし、突発的な豪雨や

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとしましょう。	災害発生情報
警戒レベル4 全員避難	被害が発生する恐れが極めて高い状況です。直ちに避難行動をとしましょう。	避難勧告 避難指示
警戒レベル3 高齢者などは避難	高齢者や障がいのある人など、避難に時間の要する人は避難しましょう。	避難準備・高齢者等避難開始
警戒レベル2	防災マップの確認など、避難に備えて避難行動を確認しましょう。	洪水・大雨注意報など
警戒レベル1	最新の気象情報に注意し、災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報

大切な人の安否確認 「災害用伝言サービス」

災害時に連絡が取りにくい場合、被災地域内やその他の地域の人とをつなが伝言板となり安否確認をする有効な方法です。

電話を利用する声の伝言板「ダイヤル171」

171に電話をかけ、ガイダンスにしたがって録音や再生をしてください

インターネットを活用する伝言版「web171」

<https://www.web171.jp>にアクセスし、画面にしたがって入力をしてください。

体験利用日^{*}には、電話やインターネットで練習することができます。いざという時にスムーズに使えるよう、活用しましょう。

※毎月1日・15日、防災週間（8/30～9/5）、防災とボランティア週間（1/15～1/21）、1/1～1/3
詳細はホームページでご確認ください。



夜間の大雨など、河川や道路の状況が分からない中で屋外へ避難することは、危険を伴います。外の方が危険と感ずる場合は無理をせず、状況を判断して行動することが重要です。また、増水時などに田畑や川の様子を見に行くことは、大変危険ですので絶対にしないでください。被害状況の確認は、外の状況が落ち着いてから行いましょう。災害時に最優先すべきは皆さん自身の「命」です。危険が迫ったときには、避難することだけを考え、行動してください。



被害があった場合は連絡を

災害時の被害報告については、下記のとおりお願いします。

【家屋・道路の被害】→ 自治会長

【田畑など農地の被害】→ 農会長

皆さんからの報告内容を、各長にてまとめた後、町職員にて被害確認を行います。

「もしも」のために 登録を！

～警報の発令や避難所開設などをお知らせ～

いなぼうネット（ひょうご防災ネット）

inagawa@bosai.net 宛または、右のQRコードを読み込み、件名と本文を入力せずにメールを送信してください。しばらくすると仮登録メールが届きますので、記載されているURLにアクセスし「利用規約（必読）」の内容を確認のうえ、案内に従って登録してください。



～携帯電話をお持ちでない人へ～
防災情報配信サービス

事前に登録いただくことでFAXや固定電話へ避難情報などを配信します。

配信を希望する人は、生活安全課に備え付けの登録用紙に必要事項を記入し、同課まで提出してください。

～停電に関する情報はこちら～
関西停電情報アプリ

町内で停電が発生するとアプリでお知らせし、復旧見込み時間を確認できます。

「関西停電情報」で検索または、右のQRコードからダウンロードしてください。



新

しい形の防災・

非

常時持出品

迷わず避難を！

新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧されている今、「避難はしたいけど、感染が心配…」と、不安に感じている人も多いのではないだろうか。しかし、同感染症が収束しない中でも、災害時に危険な場所にいる人は命を守ることを最優先し、迷わず避難することが原則です。

慌てず落ち着いて行動できるように、今までは違う避難方法や場所についても考え、「もしもの時」に備えましょう。

避難所について

町では、感染症拡大防止を考慮した避難所の開設を行います。各避難所では、「検温」や「健康チェックシート」を使い、入所時に避難者の身体の状態を確認します。検温とチェックシートの結

果、体調不良が認められる人とそうでない人でスペースを分け、「間仕切り用テント」を使用するなどして感染リスクを減らします。また、入所後も咳や味覚障害などの症状がないか、検温とともに定期的に各自で確認を行っていた



▲ 6月18日、六瀬総合センターで町職員向けに行った、避難所開設時に使用予定の「間仕切り用テント」と「段ボールベッド」の設営訓練



▲入所時に行う検温

分散避難について

避難所へ行くことだけが避難ではありません。ご自身や家族にとって最良の方法や場所について、日頃から話し合っておきましょう。

◆在宅避難・垂直避難

避難が間に合わなかった場合や、自宅が浸水や土砂災害などの被害想定区域でない場合は、在宅での避難を考えましょう。

水害の場合は上の階へ（垂直避難）、土砂災害の場合は斜面と反対側の2階以上の部屋へ移動するだけでも、命が助かる可能性は高まります。

◆親戚・友人などの家に避難

密になりやすい避難所での感染を避けるため、安全が確保できる場所に住んでいる親族や知人・友人の家などへの避難も考えましょう。

みんなで備える防災

生活に恵みをもたらす猪名川町の豊かな自然は、時として私たちに牙をむきます。新型コロナウイルス感染症の流行という非常事態においても、自然災害は待つてはくれません。

皆さんの命を守るため、町でも様々な備えを行っています。行政の力だけでは限界があります。だからこそ、自分自身で自分や家族の命を守る「自助」と、地域や近隣で助け合い命を守る「共助」という、心構えと行動が重要になってきます。いざという時、命を守るのは「早めの避難」と「人とのつながり」であることを忘れないでください。

大切な人の命を守るための行動ができるよう、みなさん一人ひとりが日頃から防災に対する意識を持ち、「もしもの時」に備えていただければと思います。



猪名川町長 福田 長治

避難先での過ごし方 POINT

- ◇ マスクを着用し、咳エチケットを徹底
- ◇ マスクがない場合、ティッシュやハンカチなどで口と鼻を覆う
- ◇ 人と2mほどの距離をとる
- ◇ 定期的な換気をする
- ◇ 熱中症予防のため、こまめに水分補給をする
- ◇ こまめに手洗いをする（食事前やトイレ使用後などは必須）
- ◇ 食事時間をずらし、密を避ける
- ◇ 箸やコップなどの共有は控える
- ◇ 定期的な体温チェック
- ◇ 体調不良の場合は我慢せず、すぐに避難所職員に報告

非常時持出品リスト

- 携帯ラジオ □ 救急医療品 □ 貴重品
- 懐中電灯 □ 飲料水 □ 服用薬 / お薬手帳
- 非常食品（火を通さず食べられるもの、食器など）
- ライター □ ウエットティッシュ □ タオル
- ヘルメット □ 携帯電話 / バッテリー

《感染症対策用品》

- マスク □ 体温計 □ 消毒液 □ スリッパ

家庭備蓄品リスト

災害復旧までの数日間（最低3日）を生活できるように準備しましょう。

- 飲料水（1人1日3ℓ目安） □ 生活日用品
- 非常食品（レトルト食品、缶詰など）
- 燃料（卓上コンロ、ガスボンベ、固形燃料）



「物」を備える
避難所の備蓄品には限りがあります。安全に避難するため、また避難した後の生活のためにも、非常時持出品の準備をして、すぐに持ち出せるよう玄関や寝室に置いておきましょう。
リストを参考に、ご自身やご家庭の状況にあつたものを準備してください。マスクや体温計などの感染症対策用品については、必ず確認をお願いします。